

ありが隊新聞

第137号

私は誰でしょう!? 答えは誰かの記事の中に



残暑厳しい初秋となりました。
村民のみなさん、お元気でお過ごしでしょうか？

我々天龍村地域おこし協力隊「ありが隊」は8・9月、3名のインターン生を迎え活動しました。それぞれ活動内容は異なりますが、「地域おこし協力隊」の公用車が村内外を駆け回り、交流や天龍村の地域活性化のため、また、自身の人生の糧となるような仕事をする中で、お互いに天龍村について新たな発見があったり今後の課題を考えたりする機会となったように感じます。杉山さん、菊地原さん、井坪さん、お疲れさまでした。これからも折々に村で活躍していただけたら嬉しいです。いつでもお待ちしております！

ということで、本号は現役3名＋インターン3名の報告を掲載しています。久しぶりのこのボリューム感ですが、ご一読いただけましたら。編集 望月ひとみ



加藤まゆみ



望月ひとみ



於保 樹

於保樹の活動報告

林業

今月は、支障木伐採や搬出作業をお手伝いさせていただきました。伐倒方法・枯木の対処・チェーンソーの使い方など技術的なことはもちろんですが、最も勉強になったことは「相手が次に何をしたいのか、迷惑にならないよう先を読んだ行動をすること」です。人それぞれ作業方法や考え方が異なるので本当に難しいです。ただ、その力を養えば、誰でも作業できるし、信頼できる相棒が見つかるはずなので精進していきたいです。



搬出作業

菌床シイタケの栽培を家の前で始め、八キロほど収穫できました。水の調達や水やり方法、温度管理など考えることが沢山あり、難しいです。



菌床シイタケ

地域交流

九月中旬に東京の武蔵野大学の学生さんたちが向方地区を訪ねてくれました。栃の実拾い・お宮の丸太切り、お祭りや暮らしの話などをしながら交流しました。お昼は餅を焼いて食べました。満足そうなお顔をしてくれて良かったです。



武蔵野大学生受入れ

農業

稲の収穫時期となりました。今月は大学やお祭り関連の知人が来てくれるため、体験がてら稲刈りを行います。稲から育てた稲の収穫。感慨深いですね。収穫したお米を食べるのが待ち遠しいです！



田んぼ

加藤まゆみ

「おきよめの神の物語」

七月の公演の一環で、和太鼓教室を八月十八日(日) 体育館にて小学生から八〇代まで約二〇名ほどの方の参加で行いました。和太鼓の基本から、一つの太鼓を三名で打つ「楽」という楽曲をできるところまででしたが、藍羽さんのご指導のもと、皆さん戸惑いながらも楽しく参加してくださいました。私も久しぶりに一日和太鼓に触れ、いい汗かかせてもらいました。この曲を文化祭でやりたい！という声もあるのですが、もしかしたら観れるチャンスがあるかもしれません。



十一月一日(金)「おきよめの湯三十周年イベント」で、久しぶりに和太鼓演奏させていただく機会を頂けそうです。

◇わちかふえ

まだまだ暑い九月はかき氷も引き続き提供中。秋になって新たなメニューも登場予定です。土日はほぼ居ますので、ぜひ和知野川キャンプ場へも足を運んでください。



◇東京農大生と南信州伝統野菜お弁当
九月七日(土)「まるごと天龍村弁当」を飯田で行われた南信州ファーマーズマーケットにて販売するため、佐々木支援員、井坪隊員(インターン)と農大生と作らせて頂きました。いくつかのおかずを改良し、今回はほぼ天龍村産のお弁当ができました。これから季節で内容を変えながら続けていけるといいなあと感じています。



天龍やんやんや

文 望月ひとみ

「なにかから伝えたいのか」というくらい、てんやわんやとしていた八月後半から九月。今月で天龍村に移住し、丸二年が過ぎました。まだ二年しか経っていないのか、と感じるほどにどっぴりと村にはまり、充実した日々を過ごしています。「自分で食べるものはなるべく自分で作る暮らしをしたい」と、三年ほど前に移住を決意し、いま、山・川・鳥・虫と人とのつながりを感じられる天龍村暮らしを選択したことには間違っていないなあと感じています。皆さまにあたたかく受け入れていただき、改めてありがとうございます。

さて、今回は、自身の活動と地域づくりについて最近思うところについて記したいと思います。

ありが隊の活動としては、村の伝統野菜をいざなすの栽培者としての活動をメインとし、ていぎなす・十久保南蜜、その他の作物を種から育てることに携わらせていただいています。種から育てた苗は、村内の方の元で育てられ、食材となります。また、天龍村のブランド品としての生産出荷用の農産物(ていぎなす等)については、販売することでお金に替えられ、村内生産者の生活を支えるものとなっています。種・苗という一番根幹に関わる仕事に緊張感と充実感を感じています。

ところで、昨今、世界情勢の変化等により、あらゆる商品の価格高騰が叫ばれて久しいですがみなさんの

ご家庭ではどうですか。お金は現代なくてはならないものになってしまいましたが、気象災害や物流量減少等の社会変動において、最も大事なことは、お金ではなく、食糧確保であると考えます。天龍村は山村ですが、お米は安心して暮らしていくにはどういう村にしたいのか、を考える必要があると感じます。数日生きるための備蓄に於いて、見直しが必要です。地域振興において、観光客増や宣伝も大事ですが、まず内側を固めなければ本末転倒ではないでしょうか。

江戸時代は備蓄穀物が三〇〇%あったという話を聞きました。天龍村ではまだまだ田んぼや畑で米をはじめとする作物を作っている方もいらっしゃると思います。高齢化により「いよいよよえらくなってきたナァ」という声もちらほら。地元で日ごろ食べる作物が出来、おいしく食べられることは生活の土台であると思います。公社や民間団体、有志等で農地を引継ぎ、活用していけないかなどと思いつく、こうべを垂れた稲穂を眺めています。

いよいよ秋祭り。収穫の恵みに感謝する機会に。

東京農大生 望月梨乃華さん
十久保南蜜×ブッポウソウのキャラクター
(名前はまだ無いのでぜひお寄せください)



インターン生 活動報告

① 杉山音羽

すぎやま とわ

武蔵野大学工学部〈東京〉環境システム学科四年
インターン期間…八月九日～九月二〇日

活動内容は、天龍村の文化・暮らし・生業についてインタビューをして記事にまとめ、発信できるように取り組みました。外から見た天龍村の魅力や豊かさを自分なりに見つけ、読んでもらった方に「天龍村に訪れてみたい!」「移住してみたい!」と思えるような記事になったらうれしいです。

天龍村には五回ほど訪れていますが、実際に暮らしてみると毎日のように地域の方からお野菜をいただいたり、洗濯物の干し場に困っていると近所の方に物干し場を作ってもらったりと、とても助けていただき、楽しく生活ができています。このようなことは都内で暮らしている私には考えもつかないことです。他にも、お茶農家さんのインタビューを通じて、普段知り得ないことを学ばせていただきました。長野県で唯一のシングルオリジン紅茶を生産する「なかや農園」さん。加工場では自分の五感を大切にしながら発酵度合いを確認して製造する姿を見る機会や、中井侍地区の茶畑の傾斜のすごさに驚かされることもありました。



取材風景

③ 井坪大雅

いっぽ たいが

東京農業大学 地域創成科学科〈東京〉三年
インターン期間…八月十一日～九月二十三日

まだまだ暑いですが虫たちの秋らしい鳴き声が響き渡る季節になりましたね。天龍村での協力隊インターンも残りわずかとなりました。(九月十六日現在)

期間中は天龍農林業公社様にて、ていざなすや十久保南蛮、パプリカ、ピーマン等の栽培をお手伝いさせていただきました。ていざなすの出荷は朝七時なので実家のある飯田市から六時には畑に来て収穫作業を行いました。初めて収穫した日はどのなすも大きく見えてしまい半分以上が出荷基準より小さいなすでした(笑)。最近はやより早く収穫ができるようになった気がします。

農作業以外にふるさと夏祭りや東京都文京区傳通院、名古屋中日ビル、飯田市のイオンのイベントでていざなす等の販売を行いました。ブーイスの前を通る皆さんがていざなすの大きさに注目し買っていくくれるので、改めてていざなすの持つポテンシャルの高さを感じました。八月二十日には、十久保南蛮の初出荷がありました。昨年末から十久保南蛮について大学の部活動で調査を続けてきたので貴重な瞬間に立ち会えることができ、感慨深い気持ちになりました。

最後に、インターンのおかげでとても充実した楽しい夏を過ごすことができました。森さんを始め公社、生産者、役場、協力隊の皆さんありがとうございました。今後とも天龍村と関わりを持てるよう、より一層精進して参りたいと思います。

② 菊地原 克也

きくちはら かつや

武蔵野大学工学部〈東京〉環境システム学科三年
インターン期間…八月九日～八月二十三日

二週間という短い期間だったが、新鮮な体験を多くすることができ、かなり濃厚な二週間となった。

私は今回、村松武彦さんの村田屋養魚場にお邪魔させていただいたが、活動の中で武彦さんの信州サーモンへの他とは違うこだわりを感じた。

村田屋養魚場では、養魚場のそばを流れる川の上流から水を引いており大量のきれいな水で信州サーモンの養殖を行っている。また、出荷までの期間にもこだわりがあり、本来二年間ほどの養殖期間で出荷するのに対し、村田屋養魚場はその倍の四年から五年かけて出荷する。武彦さん曰く、そうすると身がしまり、味も良くなるらしい。私も実際に村田屋養魚場の信州サーモンを食してみたが、臭みは一切なく濃厚な味わいで非常に美味しかった。

このような、自己の利益だけではなく、顧客への思いが詰まったこだわりの、現代社会から失われつつある美徳だと感じた。今回私を受け入れてくださった天龍村の方々には、深く感謝したい。



サーモンの養殖場にて学ぶ

新規隊員募集中!!

地域おこし協力隊制度導入から11年が経過しました。その間23名の方が退任され、11名の方が村に定住しています。

定住率47.8%

都市部から来た方が、村の地域活性化に真剣に取り組んでいます。

今後も、ソトモノ・ワカモノの力で天龍村がより一層ワクワクする地域になるよう、引き続き隊員を募集していきますので、少しでも興味があればご連絡ください!

地域振興課 移住定住推進係 (0260-32-1023)

東京都文京区で
ていざなすを100本
売ってきました!!

